

来訪者管理戦略における次期計画期間の 指標・水準及び対策について

1 経緯

- ・来訪者管理の目標として「望ましい富士登山の在り方」を定義。
①登山の文化的伝統の継承 ②展望景観の維持 ③登山の安全性・快適性の確保
- ・「望ましい富士登山の在り方」を実現するために指標・水準を設定
2015年（平成27年）を起点として2018年（平成30年）から対策を実施。

基準設定の考え方

●指標

- ・「望ましい富士登山の在り方」の実現につながり、変化を容易に確認できる。
- ・モニタリングに際し、特別な機材や技術、過度な経費を必要しない。 等

●水準(2019年の目標値)

- ・定量的な指標は、当初指標設定時の現状値(2015年～2017年の平均値)から10%程度の改善を目指す。

- ・概ね5年ごとに指標・水準の評価・見直しを実施。対策は随時見直す。
- ・第12回学術委員会(2019年(令和元年)10月開催)において、次期計画期間の指標・水準の見直しは行わず対策を継続・強化するという方向性が承認された。

2 指標・水準の評価（詳細は、資料4-2に記載）

(1) 指標

設定した当時から大きな事情の変化はなく（新型コロナウイルス感染症の流行を除く。）、現時点で「望ましい富士登山の在り方」を実現するために最良のものである。

(2) 水準

- ・年によって水準を達成している指標もあるが、多くが未達成。
- ・未達成指標の数値の多くがほぼ横ばい。中には水準と現状に乖離があるものがある。

【指標・水準、実績抜粋例】

【指 標】	水準設定時の基準期間			実績		【水準】 2019年の 目標値	
	2015	2016	2017	2018	2019		
伝統的な登拝の登山形態と同様に、山小屋で休息してから山頂で御来光を拝む登山者の割合	69.0%	68.2%	77.7%	82.0%	77.3%	80%以上	
自然と調和しない人工構造物による登山道沿いの景観阻害	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
夏山期間を通じて「著しい混雑が発生する登山者数/日」を超えた日数	吉田口	4日	4日	5日	6日	6日	3日以下
	富士宮口	3日	2日	4日	—	3日	2日以下

3 次期計画期間における指標・水準の設定

(1) 指標 現行のものから変更しない。

(2) 水準 現行のものから変更しない。

⇒現行の指標・水準(2019年目標値)と同様とし、引き続き「モニタリング」による検証を継続するとともに「対策」を強化し水準の達成を目指す。

※一部の指標については、現状値と水準の乖離幅があるが、取組期間が2年であることも踏まえ、対策の継続及び強化を行うことで改善を図ることとし、水準の下方修正は行わない。

4 当面の重点目標及び対策

引き続き、登山の安全性・快適性を確保する観点から、極めて限定的に発生している著しい混雑の解消を図ること(平準化)を当面の重点目標とする。

- ・混雑予想カレンダーの周知
 - ▶ オフィシャルHP、登山用品店等での周知の継続と、作成後2年が経過したチラシのリニューアル
- ・効果的な「混雑情報等動画」を作成し、情報発信を強化
 - ▶ 動画には、混雑情報に加えて、他の指標(文化的伝統等)の情報も掲載
 - ▶ 世界遺産センターでの放映の検討やHP掲載、広報の工夫
- ・「世界遺産巡り(アクセスガイドマップ)」の英語版の作成(2019年度)と配布

5 新型コロナウイルス感染症

- ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開山しないこととなった。
- ・令和3年度に向けた富士登山の在り方については、国、山梨県・静岡県、地元市町村、山小屋関係者等で構成される「富士山における適正利用推進協議会」で検討することとし、必要に応じて本計画へ反映する。